

さざなみ

# 国語教室

さざなみ国語教室  
 第504号 2024年3月25日  
 発行者代表 吉永幸司  
 連絡先 大津市柳川2-11-5  
 TEL 077-522-1008  
 発行所 滋賀児童文化協会  
 NPO 現代の教育問題研究所

## 道徳科と日々の道徳教育

田中 千映

私は、本校で道徳科の授業研究をしている。もちろん、道徳科におけるよりよい授業をめざして、発問や振り返り、話し合いの仕方などを中心に研究に励んでいるが、ここで書きたいと思うことは、様々な教育活動における道徳教育があつてこそその道徳科の授業だと改めて考えたことである。

それは、2年生で行った「きまりのない学校」(C規則の尊重)の授業である。

子どもたちは、自分の楽しさや興味に夢中になるあまり、きまりを守らず活動してしまうことが多いというのが実態であつた。また、守らないと叱られるから、守るとほめてもらえるからという気もちからきまりを守ろうとする子ども

たちも少なくなかつた。自分勝手な行動をしている時は、「みんなが困っているよ」などの声掛けは常にしてきた。

「きまりのない学校」は、きまりなんてなければいいのと思つているほうが、夢の中できまりのない学校生活を体験し、夢から覚めた時、「ああ、夢でよかった」とつぶやく話である。

授業では、「きまりのある時」と「きまりのない時」を比較し、「夢でよかった」とつぶやくほどの気もちを考えた。また「きまりがあるのは何のためかを話し合ひ、きまりがある理由を、子どもたちは「みんなが気もちよく過ごすため」「けがをしないため」「授業ができるため」などと考えていた。

道徳科は内面的資質を育てると言われ、即実践につながるとは限らない。しかし、授業後は、A君や学級の子どもたちに大きな変化が見られた。

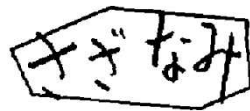
A君は、水筒置き場に水筒を置くように声掛けしても机の横にかけたり、授業の準備などもマイペースに行ひ、みんなを待たせたりすることも多かつた。しかし、そのA君が、授業を終えた翌朝から水筒を水筒置き場に置くようになった。また、直し忘れていた時には、「みんなが引つかかるよ」と声掛けすると、すぐに片付けに行く姿が見られた。また「みんなが待っているよ」の声掛けで、急ぐ様子も見られるようになった。

他の子どもたちも、「みんなが困るよ」「みんなが待っているよ」などの「みんなが」という言葉をかけると、自分の行動を見直そうとする様子が見られるようになった。

きっと、A君をはじめ学級の子どもたちは、これまで言われていた「みんなが困っているよ」や「みんなが待っていてくれるよ」の言葉が、授業を通して、「こういふことだったんだ」と一人一人の中心でつながつたのではないかと考えている。

今回の授業から、道徳科は日々の道徳教育を大事にしながら行っていくことの重要性を改めて考えさせられた。

(和歌山大学附属小学校)



▼「マルハラ」という新たなハラスメントが注目されているようです。若い世代との「ニギ」で文末に「。」をつける、怒っているや受け取られるので注意という意味「句点ハラスメント」と呼ばれているようです。▼句点は、文の区切りや一息つくところを示す役割があります。が、句点を多く入れると、文が細切れになり、相手に対する不満や不信感を表現しているように受け取られることがあります。その機能がある、相手に不快感や圧力を与え、行為になるか不思議なので調べました▼例文になつていたので、「今日は、どこに、行きましたか?」というメッセージです。句点というより読点が多い文章なので読みづらいのは確かです。あるいは「?」が、相手に詰問しているように感じられるかもしれませぬ。また、意図的に句点を多く使って、読み辛さを意識して、相手をお不安にさせたりすることは避けられるようにするという意味で使われているとすれば納得です▼無意識に句点や読点を使いすぎてしまう場合があります。句点の使い方には個人差や文化差があります。メールが通信手段として日常化し、随分便利になりました。大事なこと、相手の気持ちや受け取り方を考えて、適切な文章を書くということ。▼「国語力は人間力」ということの意味を考え、機会になつた「マルハラ」論議です。(吉永幸司)

一年間の国語学習の振り返り  
川部 長人

学習の中で、振り返りはとても大切だと考えている。今まで一時間の振り返りや単元の振り返りについては行っていたが、一年間の国語学習についての振り返りについては行ったことがなかった。今年一年で子どもたちは国語の学習でどのようなことを学んだのか、また来年度に向けてどのような思いを持っているのか子どもたちと振り返る時間はとても大切だと思いい取り組んでみた。子どもたちの振り返りを紹介する。

「心の中のこったニャーゴ」  
わたしが国語の学しゅうで、一番心にのこっているのは『ニャーゴ』です。『ニャーゴ』で学しゅうしたことは友だちやみんなのきもちを考慮したり、さいごは音読げきをしました。わたしはねずみはねこにこわがらずにねここと、友だちになつたところがふしぎに思いました。『ニャーゴ』の学しゅうでがんばったことは音誌とししゃです。音読は人ぶつがししゃべっているところは、その人ぶつらしく話しました。ししゃはずつと書いていると手がいたくなつたけどとてまたのしかつたです。  
一番思いでにのこっているりゅうは、ねずみがねこに食べられるのかドキドキしたからです。ねこはさいしよわるいねこのかなと思つていたけど、ねずみと友だち

になつてからわるいねこではないんだなと思ひました。三年生になつても楽しく音読やししゃをがんばつていきたいです。(ヨウコさん)

「がまくんやかえるくんの気もちになれたお手紙」

ぼくが二年生の国語で心にのこっているのは、お手紙です。がまくんがお手紙をもらえなくて、かえるくんがお手紙をわたす話です。その話でぼくは、がまくんやかえるくんの気もちがすこしわかりました。がまくんはぼくはげつたいにもらえないんだとはじめ思ひこんでいたんだと思ひました。でもかえるくんが、がまくんにお手紙を出したと聞くと、うれしかつたのか、かえるくんにとんとんお手紙のことについて聞いていました。かえるくんのほうはがまくんの話を聞くと、大いそぎで家に帰つたのがすこいと思ひました。親友のためにも大いそぎで帰つて、すぐお手紙を書くのがいいと思ひました。がんばつたことはいろいろがまくんやかえるくんについてたくさん書いたことです。いろいろなことを思えて、楽しかつたです。(タカハルさん)

子どもたちの振り返りを読んでみると、私自身が学ぶこともたくさんあつた。今後も振り返りの時間を大切にしていきたい。

(東近江市立能登川南小学校)

音読の取り組み  
畑中 翔太

「ためきの糸車」の研究授業をして、課題として音読があがつた。毎時間の音読の時間を確保すること。様々な読ませ方で楽しく読ませること。を意識して授業を進めてきた。しかし、ただ読ませる活動になつていたのでないかと思ふ。

「ずうっと、ずっと、大すきだよ」(光村 一年 下)では、「音読のテストをする。」という読む活動のゴールを設定した。テストでは、  
・相手にしつかり聞こえる声量で読む。  
・読み間違えをしない。  
・登場人物の気持ちを表現して読む。

という観点で行つた。テストに向けて、ただ読むだけではなく、正しく読もうとする子どもの姿が見られた。一人ずつ丸読みをしている時には、間違つた読み方を友だちに教える子や、自ら間違いに気づき修正して読む子がいた。

Aさんは宿題で、気持ちを込めた音読をお家の人に聞いてもらい

「とても上手になつたねと褒めてもらえたよ。」と教えてくれた。実際にAさんはテストでも登場人物の台詞を、悲しい読み方で表現した。

Bさんはテストに向けていつもより大きな声で読むようにしていた。私が「元気な声がよく聞こえて、いいですね。」と言うと昨日よりも大きな声になり、読み方が変わつていった。Bさんが褒められていたのを見て、それに続こうと声を出そうとする子が増えた。

今回「読むテスト」というゴールを設定することで、読む観点に向けて進んで読む子どもの姿を見ることができた。また家庭の応援や、教師の価値づけの効果も感じることができた。何かに向かつて読むということが子ども達の意欲に働きかけたのだろう。

また、テストでは一人ひとり音読の力を確認することができると評価にも繋げることができた。改めて一人ひとりの音読を聞いてみると、一斉読みでは聞き取れないその子の癖や、または細かい表現を聞くことができて面白かつた。楽しく読むことと、力をつけるための読みとを意識していきたい。

(大津市立田上小学校)

**生活科と国語科**  
川端 由起

草津市は、来年度から全校でSDGsの考え方を元にしたもので、ESDカレンダールの作成を求められています。ESDカレンダールとは、SDGsの考え方を元にしたものです。来年度の校内研究も、ESDカレンダールを元に、生活科・総合学習になりました。私は昨年度、今年と2年生を2年連続担当しました。そこで生活科について少し考えてみました。

生活科の学習時間とは、持続可能な社会を社会で求められる「探究」の中心を担うものである。①これからの社会で求められる学びは、「探究」である。身近な社会の問題の解決に向けて、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動する力が求められている。自らの思いや願いの実現に向けた学習活動を展開する低学年の生活科における探究が大切である。

②生活科においては、「体験と表現が往還するプロセス」をイメージし、表現活動に内在する機能を明確にしていけることが求められる。と感じました。

探究する力の育成を目指す資質・能力の3つの柱としては、①何を理解しているか、何ができるか、②生きて働く「知識・技能」の習得、③理解していること・できることを未知の状況にも対応できる

思考力・判断力・表現力の育成③どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養になります。そして学習指導要領では生活科で学ぶべきことが示されています。大切なのはこの4つです。①思いや願いをもつ②活動や体験をする③感じる・考える④表現する・行為する(伝え合う・振り返る)。

当たり前ですが、②以外は全て言葉の力が必要になってきます。また、国語科の単元と生活科の単元はリンクしていることが多く、2年生2年目の今年も、国語科で学んだ観察文の書き方を夏野菜の記録文に適用しました。次に生活科で学習したおもちゃ作りを、今度はその書き方を国語科で学習しました。低学年の生活科は国語科と密接に関わっていると感じ、また国語力がなければ自ら考え主体的に考えることはできないし、考えたことを表現することはできないと改めて思いました。

今までは、国語という科目を教科書を中心に考えていましたが、今年度校内研究が生活・総合になったことをきっかけに教科横断で国語という教科を通じて、主体的に学び、豊かに思いを表現でき、学びを深めていける学習を紡いでいきたいです。その為に教科書を活用しつつも、低学年で学ぶべきことを再度見つけ、確かな国語力を児童につけていきたいです。

(草津市立志津小学校)

**『3学期から漢字ミニ先生』**  
井上 滉斗

小学四年生は、二〇二字もの漢字を習得する重要な学年です。日々の学習が欠かせませんが、漢字学習に時間をかけすぎることによる、他の学習への影響も懸念されます。また、従来の画一的な指導では、子どもたちの興味・関心を引き出すことが難しく、学習意欲の低下につながる可能性があります。

そこで、三学期からは、子どもたちが主体的に学習に取り組むために「ミニ漢字先生プロジェクト」を実施しました。

はじめに、三学期に学習する全三十八字の中から、子どもたち一人一人が教える漢字を選びました。自分の名前の漢字、画数が多い漢字、好きな漢字、難しい漢字など、子どもたちは思い思いに漢字を選びました。

次に、子どもたちは選んだ漢字を漢字シートに書き、「教え方」を考えました。「間違いやすい画」・「部首・つくり」・「でき方」・「意味・使い方」など、子どもたちは友だちが覚えられるように、漢字の様々な点に着目して、工夫を凝らしました。

そして、ミニ先生となり、みんなの前に立ち、漢字シートをもとに自分の選んだ漢字を教え合いました。(下の写真)

「ミニ漢字先生プロジェクト」を実施したことで、

◎教える側となることで、自発的に学習に取り組むことができた。  
◎「教えること」を意識したこと  
で、今までよりも漢字への理解度が増した。

◎新出漢字と友だちを結びつけて覚えることで、漢字の定着につながった。

などの成果を感じました。「自分が教えた漢字やからテストでも間違えなかった」などの子どもたちの声も聞こえ、主体的な学びができたことにつながりました。

一方で、熟語指導不足などの課題もありました。また、実施するには、子どもたちの横のつながりが必要であると感じました。

このように、「ミニ漢字先生プロジェクト」は、子どもたちの学習意欲を高め、学力向上に貢献できる取り組みだと感じました。課題を克服しながら、より効果的な学習方法として発展させていきたいです。

(豊郷町立日栄小学校)



第5回近江の子ども俳句教室  
滋賀県知事賞・各賞の発表  
好光幹雄

NPO法人現代の教育問題研究所(理事長 吉永幸司)が主催した「第5回近江の子ども俳句教室・投句部門」に全国から多数の応募がありました。厳選な審査を経て滋賀県知事賞以下が決定しました。

- 滋賀県知事賞 5年 竹内勇樹
- お正月 あのも 行きよく
- 大津市長賞 6年 金子大河
- うるこ雲 隣町まで
- 草津市長賞 1年 相木 啓
- あおいそら どんぐりいっぱい
- おちてこい
- 滋賀県教育長賞 4年 山口莉央
- 冬休み ひとりぼっちのランドセル
- 大津市教育長賞 4年 沼波明希
- とびばこで いわしぐもまで
- 草津市教育長賞 3年 川畑まい
- 原つばで ごろんとねると
- いわし雲
- 朝日新聞大津総局長賞 2年 宮村柚希
- さつまいも ほくほくおかわり
- あと二本
- 毎日新聞大津支局長賞 6年 飯島彩日
- 帰り道 夕日の紅さ 彼岸花
- 産経新聞社賞 6年 鶴岡幸太
- 柿実る 幾日寝れば 熟すかな
- 読売新聞大津支局長賞 6年 東奏真
- 炎天下 放つシユート ネットゆ
- 中日新聞社賞 3年 上原璃仁
- ざくろの実 かたまってるぞ
- なかよしだ
- エフエム滋賀賞 5年 鶴田淳悟
- まだ粘る 新米のくせに 超頑固
- えんえむ草津賞 4年 小林碧葉
- 見つけたよ

F.Mおおつ賞 5年 上田和輝  
秋が来て 余計なお世話 「上着を着て」  
草津俳句連盟会長賞 2年 岡本圭史  
ピアノをね ひいてるぼくは  
若葉晴れ

【選評】圭史さんはピアノを弾くのが好きなのですね。初夏の生命感あふれる若葉のころに、大好きな曲をうきうきとした気分で作った感じが、ありありと伝わってきます。シヨパンでしようかモーツアルトでしようか。「ひいてる」とは若葉晴れと、「若葉晴れ」とは圭史さんの詩的なセンスが輝いています。まだ2年生なのに、よく「若葉晴れ」という季語を知っていましたね。私も圭史さんのピアノを聴いてみたくなりました。

五七五で読み深め交流する  
2年「スーホの白い馬」  
好光幹雄

- ①「スーホの白い馬」を暗記する。ぐらゐまで教室で何度も音読する。
- ②お話の粗筋と場面を確認する。
- ③一番感動した場面を探し、理由を付けて発表する。
- ④一番感動した場面を五七五で表現し、カードに書く。ピンクのカードは楽しい、うれしい様子や気持ち。青いカードは悔しい、悲しい様子や気持ち。
- ⑤一番感動した場面を書いたら、その場面と関連する他の場面を五七五で表現する。こうして、一番感動した場面からお話全体へと広げてゆく。
- ⑥ノートに貼ったカードを友達と交流して、素敵だと思った五七五を緑色のカードに書いて自分のノートに貼る。
- ⑦学習全体の振り返りカードを書く。学習全体のまとめをする。

⑧仕上がったノートを交流して、互いの良さを認め合う。

馬頭琴こんな話があるんだよ

スーホがね 帰ってこない

スーホがね 子馬をかかえて 帰ったよ

スーホがね 心をこめて育てたよ

白馬がすくすく育つ 大きいな

雪のよう スーホの白馬 きれいだな

白馬が ひっしにひつじを守った

スーホがね 草原こえて 町に行く

白馬が 先頭走って いい気持ち

白馬が 一等とっておめでどう

ひきまは やくそくやぶり

ひきまは やくそくやぶり

このさまが いばりちらして

白馬の せにつぎつぎに 矢がささる

白馬が 走って走って スーホの元へ

くやしさと かなしさばかり

ねむれない

ねむれない

ねむれない

ねむれない

ねむれない

ねむれない

ねむれない

編集後記

▲第五〇三回例会では、北川雅士全国国語実践研究会滋賀大会実行員会事務局長(河瀬小)さんから大会テーマ案が提起されました。協議の結果東京大会の「主体的対話的」を実現する授業」を受け継ぎ「言葉による「見方・考え方」を高める国科授業」とすることにいたしました。

▲全国の実践者とともに、主体的・対話的な学習を通じて言葉による「見方・考え方」を高める国語科の授業実践のあり方を学び合う会にしたいと願っています。是非とも多くのご参加を実行委員一同お待ちしています。

▼月例研究会の提案は畑中翔太さん(田上小) 研究教材は「ためきの糸車」(光村1年下) 研究主題は「本文から読み取る」。

▲読み取り探偵(子ども)対国語怪盗(教師)の設定で、怪盗の問題(主発問)に、本文を根拠に「だから、だ(と思う)」と探偵ワードで返しワークシートにも書き表す活動です。「さあ今日も怪盗から挑戦状が来ています」に対し「待ってました」「今日は何やる」と楽しく前向きな発言が授業の記録から読み取れました。ワークシートができ上がったいく過程を通して確かな読む業(ワザ)と力を育てていこうという実践の意図が窺えます。

▲巻頭には、田中千秋先生から玉稿をいただきました。深謝申し上げます。(森 邦博)